

## 青い目の人形

②人形歓迎会の記念写真  
(土浦幼稚園所蔵)

①青い目の人形 (土浦幼稚園所蔵)

つぶらな瞳にふくらとしたほおの西洋人形(写真①)は、アメリカから来日し土浦に来て今年80年目になりました。写真②は土浦尋常高等小学校(現土浦小学校)での歓迎会の様子です。人形は中央のケースに、周囲には市松人形が並べられています。町長をはじめ町の有志が臨席し、歓迎会は盛大に行われました。1927(昭和2)年4月29日のことです。人形はなぜこのような歓迎を受けたのでしょうか。

当時アメリカでは日本人移民労働者への反感や人種差別から、日本人移民排斥運動が起こっていました。この事態を憂慮した親日家の宣教師シドニー・ギューリック博士は、「国際児童親善会」を設立し、日本の子どもたちに人形を贈り、日本とアメリカの友情をはかる「友情人形」の計画を推進したのです。

1927年1月、約1万2000体もの友情の青い目の人形が横浜港に到着しました。3月3日の雛祭りに歓迎式典が盛大に催され、その後全国の小学校や幼稚園で再び大歓迎を受けたようです。茨城県には合計243体の人形が配布されたと記録されています。土浦小学校の沿革誌には、「昭和二年四月一日アメリカ人形ヲ寄贈セラル」とあります。後に附属幼稚園(現土浦幼稚園)で保管されたのがこの人形でした。

現在県内ではわずか9体の存在が確認されるのみです。大歓迎を受けたはずの友情人形はどのようなってしまったのでしょうか。

1941(昭和16)年、日米間に太平洋戦争が始まりました。敵性語排斥運動などが盛んになり、人々の間にはアメリカのものを敵視する風潮が強まりました。人形たちはその格好の標的となり、処分されることがあったのです。

しかし、そのような状況を憂慮し保護された例もありました。土浦でも土浦幼稚園の先生方によって保護され、戦後は職員室の片隅に置かれました。髪の毛もアメリカから着てきた服もなく、粗末なワンピースをまとっていたため、幼稚園百周年事業の際、新しい服に着せ替えたいです。この人形のパスポートは残されていないため、残念ながら名前はわかりません。人形は今、1988(昭和63)年に再度新調した服を着ていますが、色あせひび割れてはいるものの、人形本体・靴・下着は当時のままです。

日本からアメリカへも親善大使として返礼の人形が渡りました。渋沢栄一が会長を務める「日本国際児童親善会」と文部省を中心に、「答礼の日本人形」が贈られたのです。全国の女兒から1銭の寄付金を募り、各都道府県、植民地、6大都市、日本代表の計58体の特製の市松人形がアメリカへ旅立ちました。県代表の「筑波かすみ」は、ウイスコンシン州ミルウォーキー市公立博物館で大切に保存されてきました。

現在、答礼人形「筑波かすみ」は里帰りをしています。日本で修復され、ゆかりの地である茨城を、県内に残る「青い目の人形」とともに巡回中です。人形たちの目にこの80年ほどのように映ってきたのでしょうか。戦争と平和について語りかけてくれる親善大使たちが、8月14日(火)から19日(日)まで市立博物館巡回展で会いますので、ぜひご覧ください。

市立博物館 ☎824・2928

